

子ジカはどこへ

命の循環について考えた3月でした



防獣柵に子ジカが・・・

3月号でご紹介したように、数年間畑に入ってこなかったシカが、2月9日から頻繁に畑に入って来るようになりました。防獣柵を修理すると、新たな場所を壊して侵入されることを繰り返す日が続いていました。

2月21日、新たに畑を荒らされているので畑を見回ったところ、防獣柵に後脚が絡まって動けなくなった小ジカがいました。

動けなくなって間もないのか、前足を盛んに動かして飛び跳ねていますが、どうしても柵から足が抜けません。近づくのは危険なので、一日様子を見ることにして、明日の朝には足が抜けていることを期待しながら畑を後にしました。

22日、昨日の子ジカの様子を確認に行ったところ、小ジカはまだ絡まった後ろ脚を外そうともがいていました。近づくとも一層暴れるので、もう一日様子を見ることにしました。

23日、出荷作業を終えてからシカの様子を見に行くと、昨日までは元気で暴れていた小ジカは、息絶えていました。

この日は、用事があり時間がとれなかったので、翌日に埋めてやろうと思い畑を後にしました。

24日朝、子ジカの様子を見に行くと、そこには、皮をきれいはがされ、内臓を食べられた姿がありました。

26日には、前脚や皮もなくなり、肋骨と背骨だけになっていました。

それから数日かけて徐々に肋骨が無くなり、3月4日には白い背骨だけが残っていましたが、翌日にはそれもなくなり、そこにシカがいた痕跡は散らばったシカの毛だけでした。

2週間ほどで、子ジカの死体が跡形もなく消えてしまうのには驚きました。

自然の中では、このようにして死んだ者は生きている者の食糧になることで、命が循環しているという事を実感できた出来事でした。

